

第2章 日田市の文化財の概要

1. 日田市の指定等文化財

(1) 指定等文化財の件数

本市の指定等文化財の件数は、令和5（2023）年3月末時点で167件である。その内訳は国指定等34件、県指定・選択41件、市指定92件である。類型別では、有形文化財が90件と最も多く、次いで記念物57件、民俗文化財17件、無形文化財と文化的景観、伝統的建造物群の指定・選定はそれぞれ1件となっている。文化財の保存技術は現在実績無しの状況である。

また、平成27（2015）年に日本遺産の認定を受けた「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」の構成文化財のうち6件が市内に所在している。日本遺産についての詳細は後述する。

表1 日田市指定等文化財の件数

種別		国		県		市	総計	
		指定	登録・選定・選択	指定	選択	指定		
有形文化財	建造物	5	29	2	-	13	49	
	美術 工芸品	絵画	0	-	1	-	6	7
		彫刻	5	-	4	-	14	23
		工芸品	0	-	4	-	2	6
		書跡	0	-	0	-	1	1
		典籍	0	-	2	-	2	4
		古文書	0	-	1	-	5	6
		考古資料	1	-	9	-	4	14
		歴史資料	0	-	0	-	0	0
	11	29	23	0	47	110		
無形文化財		1	0	0	0	0	1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	-	0	0	2	2	
	無形の民俗文化財	1	2	5	2	5	15	
		1	2	5	2	7	17	
記念物	遺跡（史跡）	6	-	7		16	29	
	名勝地（名勝）	1	-	1		0	2	
	動物、植物、地質鉱物 （天然記念物）	1	-	3		22	26	
		8	0	11	0	38	57	
文化的景観		-	1	0	0	0	1	
伝統的建造物群		-	1	0	0	0	1	
文化財の保存技術		-	-	-	-	-	0	
総計		21	33	39	2	92	187	

※令和5（2023）年3月末時点での数値。

《資料6》

(2) 指定等文化財の概要

1) 有形文化財

本市の国指定重要文化財の内訳は、建造物が5件、美術工芸品が6件（彫刻5件、考古資料1件）である。建造物は、前室付三間社流造の構造形式を持ち、延久3（1071）年の創建と伝わる九州最古の中世神社建築である大野老松天満社旧本殿や、元禄期の商家建築である草野家住宅のほか、長福寺本堂、行徳家住宅、矢羽田家住宅の5件が指定されている。

大野老松天満社旧本殿

美術工芸品（彫刻）は慈眼山に伝わる仏像群で、永興寺の本尊とされる木造十一面観音立像や「日田殿（大蔵永季）」をモデルとしたとされる木造兜跋毘沙門天立像などの彫刻が5件指定されており、全て慈眼山仏像収蔵庫に保管されている。考古資料は、吹上遺跡の墳墓群から出土した577点を数える吹上遺跡出土品が指定されている。

隈まちづくりセンター黎明館

国登録有形文化財は9件であり、そのうち3件は日隈城の城下町として整備された隈町の一帯に所在している。山田家住宅や後藤家住宅は、隈町が商人の街として栄えた時期の雰囲気を残す商家建築である。また、隈まちづくりセンター黎明館は大正5（1916）年に大分銀行日田支店として建築された本格的洋風建築であり、現在はまちづくりセンターとして各種のイベントを開催するなどして活用されている。このほか、岩尾家住宅（旧日本丸製薬所）、井上酒造店舗兼主屋、井上家住宅、宇野家住宅のような店舗や住宅、長善寺鐘楼門、老松天満社の社寺建築が登録されている。

県指定は23件、市指定は14件である。特徴としては、応永10（1403）年の銘のある木造阿弥陀如来坐像、玉来神社神像（県指定）、吹上観音坐像、岳林寺木造弥勒菩薩坐像（市指定）など、寺社に伝わる中世にさかのぼる彫刻や石井神社銅鉢やガランドヤ古墳出土品（県指定）、有田古墳出土一括遺物、伝姫塚古墳出土鉄剣（蛇行剣）（市指定）などの考古資料が多くを占める。このほか、草三郎大神宮五輪塔婆附角塔婆（県指定）、求来里笠塔婆、大野老松天満社逆修塔、永平寺跡板碑（市指定）のような石塔類が多いことも特徴である。

ガランドヤ古墳出土品

2) 無形文化財

無形文化財は国指定の小鹿田焼1件である。小鹿田焼は江戸時代中期に柳瀬三右衛門、黒木十兵衛らによって開窯された窯業技術で300年以上の歴史を持つ。現在、9軒の窯元により窯の火が守られている。

小鹿田焼

3) 民俗文化財

有形の民俗文化財は市指定の精米用箱水車とおきあげ人形製作資料の2件であり、いずれも明治時代以降の近代の文化財である。

無形の民俗文化財は15件（国指定1件、国選択2件、県指定5件、県選択2件、市指定5件）指定・選定されている。国指定は日田祇園の曳山行事の1件、県指定は鶉飼や磐戸楽、大野楽、本城くにち楽、大原八幡宮御田植祭の5件で、祭礼行事、神事芸能が多く指定されている。市指定は有田町若八幡社やっこ振り行列、烏宿神社はだか参りのほか、出口本村楽、出口袋七夕楽、五馬楽が指定されている。国選択は豊後の水車習俗と大原八幡宮の米占い行事の2件、県選択は宮園杖神社の祭りである老松様の餅搗祭、老松様の的ほがし祭の2件である。指定状況を概観すると神社の神事芸能や豊後の水車習俗にかかる指定等がある。

日田祇園の曳山行事

鶉飼

4) 記念物

遺跡は29件（国指定6件、県指定7件、市指定16件）である。国指定は咸宜園跡、廣瀬淡窓旧宅及び墓、穴観音古墳、法恩寺山古墳群、ガランドヤ古墳、小迫辻原遺跡の6件である。県指定は川原隧道と石畳、城山古墳、永山城跡などの7件、市指定は丸山古墳、筑前台岩木壘遺跡、台神社前旧往還石畳道、小竹供養塔などの16件が指定されている。国指定では本市の先哲である廣瀬淡窓に関わる遺跡が指定されているほか、遺跡の指定状況全体を見ると古墳や集落、街道に関わる遺跡が多く、本市が古くから交通の要衝であったことを裏付けている。

咸宜園跡

耶馬溪

名勝地は2件（国指定1件、県指定1件）である。国指定では、中津市を中心とした広範囲に広がる景勝地である耶馬溪が指定されている。本市には一尺八寸山の一部が指定範囲となっている。県指定では伝来寺庭園の1件が指定されている。

動物・植物・地質鉱物は26件（国指定1件、県指定3件、市指定22件）である。国指定では、小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群、県指定は津江神社のスギと自然林、津江神社のスギと自然林、鞍形尾神社の自然林の3件、市指定ではユズリハ自然林、烏宿自然林など22件が指定されている。こ

小野川の阿蘇4火砕流堆積物
及び埋没樹木群

《資料6》

のように天然記念物は国指定を除きすべてが植物の指定となっており、本市には多くの豊かな自然が残されていることが分かる。

5) 文化的景観

文化的景観は、本市最北端で北に英彦山を控える地域である小鹿田皿山地区・池ノ鶴地区で営まれる窯業、小鹿田焼の里の1件が選定されている。なお、ここで生産される小鹿田焼は重要無形文化財に指定されている。

小鹿田焼の里

6) 伝統的建造物群

伝統的建造物群は、慶長6（1601）年に小川光氏が築いた丸山城（後の永山城）の城下町として栄えた日田市豆田町伝統的建造物群保存地区の1件が選定されている。

日田市豆田町伝統的建造物群
保存地区

7) 文化財の保存技術

文化財の保存技術は、緋系の防染用に用いられている素材であり、重要無形文化財久留米緋の緋手くびりの工程に不可欠な材料である粗苧を製造する技術である粗苧製造が選定されていたが、〇〇年に選定解除となった。

2. 埋蔵文化財

市内に分布する埋蔵文化財として、周知の埋蔵文化財包蔵地 386 件が確認されている（大分県教育委員会『大分県遺跡地図』（令和3年））。

表2 周知の埋蔵文化財包蔵地の地域別内訳

種別	旧町村						計
	日田市	天瀬町	大山町	前津江町	中津江町	上津江町	
散布地、包蔵地、包蔵地ほか	118	30	9	17	10	3	187
集落、集落ほか	43	10	1	0	0	1	55
生産遺跡、条里、条里ほか	3	0	0	0	0	0	3
経塚、社寺、祭祀、石造物ほか	3	1	2	0	2	0	8
城館、館跡、官衙ほか	9	1	0	4	1	0	15
城跡、城下町	14	1	1	0	0	0	16
墳墓、横穴墓、墳墓ほか	95	3	0	0	0	0	98
その他	3	0	0	0	1	0	4
計	288	46	13	21	14	4	386

『大分県遺跡地図』に記載された種別ごとの地域別内訳をみると、その性格が明確でない「包蔵地」「散布地」は 187 件と最も多い。次いで「墳墓」「横穴墓」が 98 件で、こうち「墳墓」の中には国指定のガランドヤ 1 号墳、2 号墳、穴観音古墳、法恩寺 4 号墳のような装飾古墳も含まれている。「集落」は 55 件、「城跡」「城下町」16 件と続き、「城跡」のうち指定等文化財では県指定の永山城跡が含まれ、未指定文化財では日隈城跡などがある。

地域別では、旧日田市域に集中して遺跡が分布しており、現在の市街地周辺や平地は条里遺跡、豆田町周辺は城下町遺跡となっている。また、三隈川流域や市内各地の台地上には多くの集落遺跡や墳墓等が分布している。また、前津江や中津江地域では包蔵地のほか城跡や砦跡が点在している。

3. 日本遺産・世界遺産

(1) 日本遺産

本市では、廣瀬淡窓の私塾跡である史跡咸宜園跡や日田市豆田町重伝建地区などを中心とした教育遺産のストーリー「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」が平成27(2015)年に日本遺産に認定されている。「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」は、本市のほかに茨城県水戸市、栃木県足利市、岡山県備前市の4都市でのシリアル型での認定となっている。

ストーリーの概要

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。

表3 日田市内の構成文化財

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	咸宜園跡	国史跡	廣瀬淡窓が創設した近世日本最大規模の私塾跡である。
2	日田市豆田町	国重伝建	私塾咸宜園と共生した町並みが残っている。
3	廣瀬淡窓旧宅及び墓	国史跡	廣瀬淡窓の人間形成に大きな影響を与えた旧宅と咸宜園塾主らの墓が現存する。
4	長福寺本堂	国重文	淡窓が最初に塾を開いた寺院の本堂が現存する。当時、出身僧侶が京都の高倉学寮の講師となるなど、日田における学問の中心であった。幼少時の淡窓はこの寺の僧侶に学び、その人間形成に影響を受けている。
5	桂林園跡	未指定	咸宜園の前身である私塾跡。それまで借家して講義を行っていた淡窓が初めて自らの塾舎を構えた場所で、塾生を励ます漢詩として全国的に著名な「休道の詩」(桂林莊雜詠示諸生)が詠まれた。
6	咸宜園関係歴史資料	未指定	私塾咸宜園の「入門簿」や「会計録」、和漢籍など、塾の実態を明らかにする資料が残る。

日本遺産の認定を受けて本市では、日本遺産公開講座「日本遺産を歩く」や日本遺産を活用し、観光振興や地域活性化を推進することを目的に設立された「日田市日本遺産活性化懇話会」の開催を通じて観光振興や地域活性化に関する提案や企画、情報発信、普及啓発などの取り組みを行っているほか、日田市内の小学校4年生～6年生の希望者が日本遺産の構成文化財や廣瀬淡窓についてガイドする「日本遺産子どもガイド」の研修会を定期的に行うなど、その周知・啓発活動に取り組んでいる。

(2) 世界遺産

本市では国指定重要無形民俗文化財の日田祇園の曳山行事が、全国に所在する32件の祭礼行事とともに「山・鉦・屋台行事」として、平成28(2016)年にユネスコ無形文化遺産に登録さ

れた。日田祇園の曳山行事は、毎年7月20日過ぎの土日に隈地区の八坂神社、竹田地区の若宮神社、豆田地区の八坂神社の三社で行われる祇園祭の総称で、9基の壮麗な山鉦が曳き出される行事である。

(3) 世界遺産登録に向けた動き

本市では、咸宜園跡と日田市豆田町の2件を茨城県水戸市の「弘道館」、栃木県足利市の「足利学校」、岡山県備前市の「閑谷学校」とともに、「近世日本の教育遺産群」として世界文化遺産への登録を目指している。本市では、平成22年度から世界遺産推進室を設置し、「咸宜園」の世界遺産登録に向けた取組を始めた。平成24(2012)年11月には水戸市・足利市とともに「教育遺産世界遺産登録推進協議会」を立ち上げ、更なる連携と協力の下、一体的な世界遺産登録への取組みを推進してきた。平成27(2015)年2月には、岡山県備前市も協議会に加入したことで、4市が協力して世界遺産への登録を目指すこととなった。令和2(2021)年10月にこれまでの調査・研究の成果をまとめた「近世日本の教育遺産群-世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」を刊行した。

またこのほか「鶺鴒文化」について、岐阜市が中心となって関連10市が連携し、登録に向けた取組を進めており、新たなユネスコ無形文化遺産となることが期待される。

4. 未指定文化財

(1) 未指定文化財の件数

本計画の策定事業の中で、市民を対象にワークショップやアンケート調査を行い、市内に残る未指定の文化財や地域のお宝について調査した。調査によって〇〇件の未指定文化財を確認することができた。確認した未指定文化財は日田市未指定文化財一覧(資料編に掲載)を作成した。

(2) 未指定文化財の概要

未指定文化財の調査の進捗に従って随時作成予定。